

学 会 記 事

第7回研究報告全国大会

第7回研究報告大会は1986年11月15～16日上智大学で開催された。今回はECの機構改革問題が共通論題となっており、丁度各国で批准の討議が行なわれている最中だった「単一欧州議定書」を中心にして報告が行なわれた。機構改革が何故でできたのか、その中容と、また本当に「欧州」の前進をもたらすことになるものなのか、それらについての報告で、討議も活発であった。本大会のプログラムは以下の通りである。

なおウォルフガング・パーベ氏及び吉川元忠氏の原稿が都合で頂けなかったので本誌に掲載できなかった。

《プログラム》

第1日（11月15日）

午前の部

<自由論題>

司会者 島野 卓爾（学 習 院 大 学）

(1) EC電子情報通信産業の新動向 吉川 元忠（日 本 興 業 銀 行）

(2) 共通農業政策（CAP）下で穀物過剰問題について

磯野喜美子（大 阪 薫 英 女 子
短 期 大 学）

午後の部

司会者 大谷 良雄（小 樽 商 科 大 学）

(3) EC域外諸国に対するGATTルールの採用

清水 章雄（小 樽 商 科 大 学）

司会者 荒川 弘（成 城 大 学）

(4) 日欧関係とヨーロッパ統合——産業技術協力のケース

工藤 章（東 京 大 学）

(5) 日欧関係について

ウォルフガング・パーベ（駐日EC代表部）

第2日(11月16日)〈共通論題〉——転換期を迎えたEC

——機構改革を中心に——

午前の部

- 司会者 山手 治之(立命館大学)
(1) 欧州同盟条約草案と機構改革 谷本治三郎(大阪経済法科大学)

- 司会者 金丸 輝明(同志社大学)
(2) 単一欧州議定書と欧州議会 小久保康之(慶應義塾大学)

午後の部

- 司会者 内田 勝敏(同志社大学)
(3) 共同市場の完成・機構改革の原動力

- 澤田マルガレーテ(筑波大学)
(4) 欧州統合の構図とその現状——視野に入ってきた欧州同盟への道

- 片山 謙二(福山大学)
(5) 全体討論

海外の学会および大学との交流

日本EC学会では、海外のEC関連学会および大学との間で相互の交流を深めるために、研究大会等の情報および機関誌の交換を行なっています。下記のリストは、『日本EC学会年報』をお送りし、交流の回答をいただいた諸機関です。会員皆様のご留学、ご出張の際にお役立て下さい。先方から研究大会の案内や機関誌が送られてきておりますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。

Nihon EC Gakkai International Connections

Denmark Dansk Selskab for Europaforskning (Danish Society for European Studies),
Prof. Hjalte Rasmussen,
c/o Institut for Markedsret, Handelshøjskolen,
Rosenørns Alle 9, DK-1970 Copenhagen,
Tel 01-35 37 35